

第3回神戸アニマルケア国際会議 2014

— 人と動物の未来の為に —

The 3rd International Conference on Animal Care in KOBE 2014
— For the Future of People and Other Animals



開催日 2014年7月19日(土)・20日(日)

開催場所 神戸ポートピアホテル(国際会議/レセプション)

入場無料



神戸アニマルケア国際会議 (ICAC KOBE) キャラクター

「アクア (神)」と「プカコモ (扉)」ハワイで
二人で「神の扉 (神戸)」という意味です。

私達はアニマルケアのキーワードを表現しています。生き物本来の在り方、「ハウオリ (幸せ)」、お互いの存在への
「マハロ (感謝)」、そしてこの会議のテーマ「クレアナ (責任)」です。

主催

公益社団法人日本獣医師会／
公益社団法人 Knots

共催

公益社団法人日本医師会／一般社団法人兵庫県獣医師会／
公益社団法人神戸市獣医師会

シンポジウム主催団体

人と動物の共通感染症研究会／公益社団法人日本動物病院福祉協会／公益社団法人日本動物福祉協会／動物との共生を考える連絡会／日本野生動物医学会／日本クマネットワーク／応用動物行動学会／公益社団法人日本獣医師会／公益社団法人日本獣医学会／奈良県うだ・アニマルパーク振興室／公益社団法人 Knots

第3回神戸アニマルケア国際会議 2014

一人と動物の未来の為に



The 3rd International Conference on Animal Care in KOBE 2014
— For the Future of People and Other Animals

第3回 ICAC KOBE 2014 基調講演



喜田 宏 先生

日本学士院会員／北海道大学大学院獣医学研究科 特任教授／
人獣共通感染症リサーチセンター センター統括／
OIE 鳥インフルエンザレファレンスラボラトリー長／
WHO 指定人獣共通感染症対策研究協力センター長

「インフルエンザウイルスの生態：
鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ対策のために」



目的

この会議は、阪神・淡路大震災15周年を契機に、全ての動物を対象とし、そのより良いケアや生息環境の保全を目指すための情報交換・新技術の創出等を議論することにより、人を含む世界中の動物の福祉を向上させ、以って、我々人間が果たしうる責任を広く社会に示し、幸福な人と動物との共生を更に前進させることを目的とする。



開催趣旨

「お互いの存在に『感謝』し、生ある限りは『幸せ』であることが、いのちに対する『責任』である。」



我々人間が、全てのいのちに対して果たしうる責任をこのように位置付けたこの会議では、阪神・淡路大震災の経験を通じての第1回、東日本大震災と向き合った第2回と、『人と動物の未来の為に』 獣医療、緊急災害時の対応、共通感染症、食の安心・安全、動物の社会的在り方、人と動物の絆等、各専門分野からの議論を続けて参りました。

そこで、第3回からは、副題を継続的に『一人と動物の未来の為に』とし、各専門の分野から、現時点で最も求められる有用な議論を選び、深めて頂くことと致しました。人も動物も幸せに居られる未来の為に、我々人間に出来る努力を明らかにし、人と動物、そして生態系の心身共に健康な未来実現に寄与します。



※ ICAC KOBE 2012の様子

第3回神戸アニマルケア国際会議 2014 ―人と動物の未来の為に― プログラム

19日(土) 10:30～12:30	■開会式 ■基調講演 喜田 宏先生(北海道大学 教授) 「インフルエンザウイルスの生態：鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ対策のために」	
19日(土) 13:30～16:30	■シンポジウムⅠ 「身近に存在する人と動物の共通感染症」 ●主催：人と動物の共通感染症研究会 ●座長：丸山 総一氏(日本大学生物資源科学部 教授) ●演者： 1. 「人と動物の共通感染症の最近の動向」：新井 智氏(国立感染研究所) 2. 「ウイルス：狂犬病(犬)」：井上 智氏(国立感染研究所) 3. 「細菌：サルモネラ症(は虫類)」：林谷 秀樹氏(東京農工大学) 4. 「真菌：皮膚糸状菌症(犬、猫)」：佐野 文子氏(琉球大学) 5. 「寄生虫：エキノコックス症(犬、キツネ)」：奥祐 三郎氏(鳥取大学) 6. 「感染症対策」：福島 和子氏(厚生労働省結核感染症課)	現在、私たちの周囲では、犬、猫以外にも、小鳥やカメ、ヘビ、トカゲなどのハ虫類、カエル、イモリなどの両生類、熱帯魚等さまざまな動物がペットとして飼育されています。今回のシンポジウム「身近に存在する人と動物の感染症」では、1. 人と動物の共通感染症の最近の動向、2. 狂犬病、3. サルモネラ症、4. 皮膚糸状菌症、5. エキノコックス症、6. 感染症対策について、それぞれ専門の先生にご講演いただきます。身近な人と動物の共通感染症について正しい認識を持っていただき、ペットと楽しく、快適に生活するための一助になれば幸いです。
	■シンポジウムⅡ 「動物達が開く心の扉～CAPP活動15,000回を迎えて」 ●主催：公益社団法人日本動物病院福祉協会 ●座長：戸塚 裕久氏(公益社団法人日本動物病院福祉協会(JAHA) CAPP 委員長) ●演者： 1. 「People and Pets Partnership～The Benefits of Living with Pets, —Animal Assisted Activities」：トーマス E. カタンザーロ氏(国際獣医コンサルティング CEO) 2. 「アレルギーについて」：山岡 幸司氏(やまおか小児科・アレルギー科クリニック 院長) 3. 「小児がんの病棟に犬が来る」：沖本 由理氏(千葉こども病院) 4. 「AAA, AAT, AAE にはどのような動物が参加しているのでしょうか(セラピー犬(動物)の参加基準)」：柴内 裕子氏(赤坂動物病院院長/JAHA 相談役) サポート企業：ロイヤルカナンジャパン	公益社団法人日本動物病院福祉協会は 1986 年より人と動物とのふれあい活動 CAPP (Companion Animal Partnership Program) をスタートさせ、動物介在活動(AAA)、動物介在療法(AAT)、動物介在教育(AAE)の3分野に 15,000 回の活動を実践して来ました。この活動は、一般家庭に共に暮らす伴侶動物が飼い主(ボランティア)と共に人の福祉と医療と教育に大きな役割を担っています。
	■シンポジウムⅢ 「暴力の連鎖：人間に対する暴力と動物虐待の関連性」 ●主催：公益社団法人日本動物福祉協会/動物との共生を考える連絡会 ●座長：山崎 恵子氏(ペット研究会「互」) ●演者： 1. 「種の垣根を越えた暴力の対策：動物虐待と人間に対する暴力の関連性を探ることによって社会資本整備及び人と動物の苦痛の軽減を達成する」：フィル・アーコー氏(ナショナル・リンク・コアリション コーディネーター) 2. 「反社会的行動と動物虐待の関連性～何故、動物虐待を反社会的行動のリスク要因として捉えるべきか～」：山崎 佐季子氏(ペット研究会「互」/社会福祉学博士)	人間社会の暴力の構図の中に動物虐待を入れるべきであるという考え方が世界的に最近注目されるようになってきているようである。児童虐待、家庭内暴力、老人虐待、そして暴力的犯罪等の陰に見え隠れする動物に対する虐待行為の意味を専門家の意見を交えて論じる場を提供する。
19日(土) 18:00～20:00	■レセプション	
20日(日) 10:00～13:00	■シンポジウムⅣ 「ずっと一緒に居られる」社会へー飼い主を支えるシステムが実現する豊かな社会 ●主催：事務局 ●座長：富永 佳与子氏(公益社団法人 Knots 理事長) ●演者： 1. 「尼崎市動物愛護基金条例について」：田原 正規氏(尼崎市動物愛護センター) 2. 「家庭動物の社会的地位を確立するために～家族の一員から社会の一員へ～」：細井戸 大成氏(大阪市獣医師会) 3. 「飼い主の今を探る」：西澤 亮治氏(特定非営利活動法人動物愛護社会推進協会 事務局長) 4. 「ずっと一緒に居られる社会ー行政の役割」：湯木 麻里氏(神戸市動物管理センター) 5. 「ずっと一緒に居られる社会ービジネスからのアプローチ」：緒方 知行氏(「Value Creator」編集主幹) サポート企業：ネスレ日本株式会社  ネスレピュリナ ペットケア	飼い主を支える社会システムは、ビジネスで成り立つものと福祉の2本立てとなる。40%が高齢者に、37%が単身者になる未来に、人と伴侶動物が『ずっと一緒に』居られる社会は如何に構築され得るのか。その広範な可能性を議論し、人と動物の幸せな未来予想図を構築したい。
	■シンポジウムⅤ 「One World, One Health ～今、北極で何が起こっているのか?～」 ●主催：日本野生動物医学会/日本クマネットワーク ●座長：坪田 敏男氏(北海道大学大学院獣医学研究科 教授) ●演者： 1. 「北極の象徴の消失：ホッキョクグマと失われつつある海水」：アンドリュウ・D・デルシエール氏(カナダ・アルバータ大学 教授) 2. 「北米ノースウッズに野生動物を求めて」：大竹 英洋氏(写真家) 3. 「パネルディスカッション」：座長+演者+山崎 晃司氏(茨城県自然博物館動物研究室 首席学芸員)／福井 大祐氏(NPO 法人 エンヴィジョン)	地球規模での環境変化は、さまざまな野生生物に大きな影響をもたらす。現在、地球温暖化により北極圏の環境に異変がみられ、そこに生息するホッキョクグマなど野生生物に多大な影響が出始めている。今回は、日本から遠く離れた地での現象について、情報を共有し未来を展望する。

20 日 (日) 10:00 ~ 13:00	■ シンポジウムⅥ 「畜産現場における野生動物被害」 ● 主催：応用動物行動学会 ● 座長：江口 祐輔氏（近畿中国四国農業研究センター） ● 演者： 1. 「野生動物による畜産被害の状況」：塚田 英晴氏（畜産草地研究所） 2. 「大型野生動物の行動と対策」：上田 弘則氏（近畿中国四国農業研究センター） 3. 「中型野生動物の行動と対策」：古谷 益朗氏（埼玉県農林総合研究センター）	野生動物による農林業被害が大きな社会問題となっている。近年、家畜生産や飼料生産を目的とした畜産の現場においてもその被害が認識されるようになってきた。そこで、本シンポジウムは、畜産現場における被害の実態と農林業被害との関連、そして、その対策および野生動物との共存について考える。
20 日 (日) 14:00 ~ 17:00	■ シンポジウムⅦ 「高度動物医療と終末期動物医療（安楽死処置を含む：平穏死について）の現状は？」 ● 主催：公益社団法人日本獣医師会 ● 座長：細井戸 大成氏（公益社団法人日本獣医師会 理事／公益社団法人日本動物病院福祉協会 会長） ● 演者： 1. 「高度動物医療の必要性と平穏死について」：細井戸 大成氏（公益社団法人日本獣医師会 理事／公益社団法人日本動物病院福祉協会 会長） 2. 「横浜における高度動物医療と終末期動物医療の現状」：藤井 康一氏（藤井動物病院 院長／公益社団法人日本動物病院福祉協会 理事） 3. 「25 年間の夜間救急動物医療運営から見てくる社会が求める家庭動物医療」：本田 善久氏（みゆう動物病院 院長／公益社団法人大阪市獣医師会 理事） 4. 「高度動物医療と終末期動物医療」～動物看護師の視点から～：富永 良子氏（ネオベッツ VR センター 動物看護師長／一般社団法人日本動物看護職協会 副会長） サポート企業：DS ファーマアニマルヘルス株式会社	「家族の一員」、「社会の一員」であるペット（以下、家庭動物）に対する動物医療への要望が高度化かつ多様化する現代社会において、「高度動物医療と終末期動物医療（安楽死処置を含む：平穏死について）」という観点から獣医師、動物看護師、飼い主を交えてのシンポジウムを開催する。
	■ シンポジウムⅧ 「畜産 Now! — 食の安全と動物福祉」 ● 主催：公益社団法人日本獣医学会 ● 座長：関崎 勉氏（東京大学 食の安全研究センター センター長 教授）／ 大澤 朗氏（神戸大学 食の安全・安心科学センター センター長 教授） ● 演者： 1. 「動物福祉に関する OIE 基準 — 食の安全への貢献」石橋 朋子氏（OIE アジア太平洋事務局 副代表） 2. 「養牛と動物福祉」：佐藤 衆介氏（東北大学農学部 教授） 3. 「農場での養豚福祉」：額 雄三氏（明治大学農学部 教授） 4. 「養鶏と動物福祉」：高瀬 公三氏（鹿児島大学共同獣医学部 教授） 5. 「兵庫県のと畜場における食肉衛生検査の取り組み」：友久 健二氏（兵庫県健康福祉部 生活消費局 参事 兼生活衛生課 課長）	農場動物飼育において食の安全の達成が求められて久しいが、今、動物福祉を考慮せねばならない状況が迫っている。本シンポジウムでは、食の安全と動物福祉はトレードオフなのか、相乗効果なのか、我が国の農場動物飼育はこれにどう対処するのかについて議論したい。
	■ シンポジウムⅨ 奈良県のいのちの教育 — 子ども達へ「いのち」を伝える試み ● 主催：奈良県うだ・アニマルパーク振興室／公益社団法人日本動物福祉協会／公益社団法人 Knots ● 座長：天ヶ瀬 正博氏（国立大学法人 奈良女子大学 准教授） ● 演者： 1. 「体験教育で行う動物愛護教育とヒューメイン教育…国際的な最先端のアプローチ」：マイケル・カウフマン氏（グリーンチムニーズ&ファーム サム&マイラ・ロス研究所 所長）／木下 美也子氏（グリーンチムニーズ&ファーム サム&マイラ・ロス研究所 教育プログラム部長） 2. 奈良県「いのちの教育」事業への取り組み：藤井 敬子氏（奈良県うだ・アニマルパーク振興室） 3. 「いのちの教育」プログラム実施自治体事例：小寺 澄枝氏（和歌山県動物愛護センター 主査） サポート企業：マースジャパン リミテッド	奈良県「いのちの教育」により、様々な「いのち」に向き合い、子ども達の共感力と相手を思いやる心を引き出していく過程とその評価を議論し、人と動物の健全な未来に資する姿を展望する。
20 日 (日) 17:00 ~ 17:30	■ 閉会式 ・ポスターセッション Award 表彰 ・次回の開催告知	

ICAC KOBE 2014 ご支援のお願い



ICAC KOBE 2014 では、広く皆さまにご支援をお願いしています。

ご興味を持って下さった方は、ICAC KOBE 事務局へご連絡をお願いします。皆さまの応援を、心よりお待ちしております！！

※ICAC KOBE へのご支援は、法人、個人どちらも、公益法人に対する寄附についての税制上の優遇措置が受けられます。

会議支援 企業 及び団体

会議全体を支援：一口 10 万円

※開催前にご入金をお願い致します。

会議 サポーター

任意の個人寄付／随時受け付け

※公益社団法人 Knots は税額控除対象団体です。

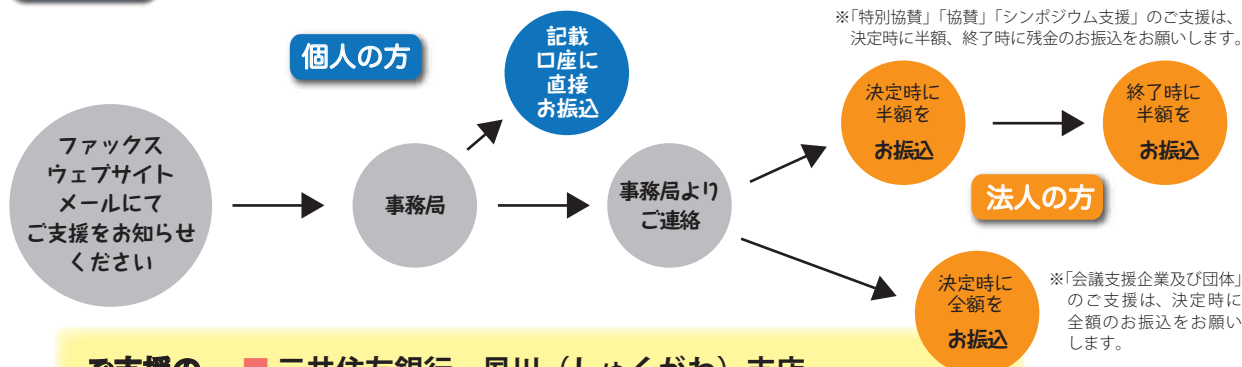
A. 10 口 (100 万円) 以上のご支援の場合

- ・ウェブページ／印刷物へのご支援名義掲載
- ・レセプションパーティー 2 名様ご招待

B. 上記以外

- ・ウェブページへのご支援名義掲載
- ・レセプションパーティー 1 名様ご招待

※「特別協賛」「協賛」「シンポジウム支援」のご支援は、決定時に半額、終了時に残金のお振込をお願いします。



ご支援の お振込先

■ 三井住友銀行 夙川（しゅくがわ）支店
（普）4120523 シヤ）ノツツ

■ ゆうちょ銀行 四三八（普）1469919 シヤ）ノツツ

シン ポジ ウム 支 援

各シンポジウムを個別に支援：150 万円

※海外スピーカー招聘の場合は、+50 万円の招聘支援金が付加されます。

※半額を決定時に、残額を終了時にご入金をお願い致します。

【抄録該当シンポジウムページへの A4 サイズ 1 ページの広告掲載／会議記録集最後の部分にも、同様に A4 1 ページの広告を掲載／ウェブページ、印刷物、看板類へのシンポジウムご支援名義掲載／レセプションパーティー 2 名様ご招待】

協 賛

会議全体への支援金：200 万円

※半額を決定時に、残額を終了時にご入金をお願い致します。

【抄録への A4 サイズ 1 ページの広告掲載／ウェブページ、印刷物、看板類への協賛ご名義掲載／レセプションパーティー 3 名様ご招待】

特別協賛

会議全体への支援金：500 万円以上

※半額を決定時に、残額を終了時にご入金をお願い致します。

【抄録表 4 もしくは表 3 への A4 サイズ 1 ページの広告掲載／ウェブページ、印刷物、看板類への特別協賛ご名義掲載／レセプションパーティー 5 名様ご招待】

ICAC KOBE
2014 では、
大学院生向けに
ポスターセッション
を設置致します

日本国内のみならず、
海外からも複数ご応募を
頂いています！

テーマは、本会議のテーマである「人と動物の未来に向けて」に寄与する研究で、獣医療、共通感染症、緊急災害時の対応、人と動物の関係、生態系の健康、食の安全、教育プログラム等、幅広いフィールドで、情報共有・情報発信を行ないます。

《ポスターセッション開催日時》

前半 7月19日(土) 10:00～18:00

(シンポジウム休憩時間：12:30～13:30 / 16:30～18:00)

後半 7月20日(日) 10:00～17:00

(シンポジウム休憩時間：13:00～14:00)



《Hill's スチューデント・サポートプログラム》

参加者には交通費の一部が助成され、優秀な発表は Award として表彰されます。

特別協賛 **ネスレ日本株式会社**  **ネスレ ピュリナ ペットケア**

協賛  **日本ヒルズ・コルゲート株式会社**

シンポジウム支援企業及び団体

ロイヤルカナンジャパン／マース ジャパン リミテッド／DSファーマアニマルヘルス株式会社

会議支援企業および団体

アメリカ・ペットフード協会／六甲山カンツリーハウス

特別協力

一般社団法人ペットフード協会／

北海道大学大学院獣医学研究科／帯広畜産大学獣医学ユニット／岩手大学農学部共同獣医学科／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻／東京農工大学農学部共同獣医学科／岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科／鳥取大学農学部共同獣医学科／山口大学共同獣医学部獣医学科／宮崎大学農学部獣医学科／鹿児島大学共同獣医学部獣医学科／大阪府立大学大学院生命環境科学研究科獣医学専攻／酪農学園大学獣医学群／北里大学獣医学部獣医学科／日本大学生物資源科学部獣医学科／麻布大学獣医学部／日本獣医生命科学大学獣医学部／帝京科学大学アニマルサイエンス学科

協力

長崎大学熱帯医学研究所／日本寄生虫学会／日本衛生動物学会／日本熱帯医学会／NPO法人野生動物救護獣医師協会／公益社団法人日本動物園水族館協会／兵庫県動物愛護センター／ニホンジカ有効活用研究会／アニマテック・オオシマ／優良家庭犬普及協会／一般社団法人日本ペット用品工業会／一般社団法人エゾシカ協会／日本動物病院会／一般社団法人日本SPF豚協会／緊急災害時動物救援本部／ちよだニャンとなる会／一般社団法人日本障害者乗馬協会／ヒトと動物の関係学会／一般社団法人日本動物看護職協会／ペットとの共生推進協議会／一般社団法人ジャパンケネルクラブ／日本獣医学生協会 (JAVS)

後援

農林水産省／環境省／厚生労働省／文部科学省／兵庫県／神戸市／兵庫県教育委員会／神戸市教育委員会／神戸市動物愛護協会／一般社団法人兵庫県医師会／一般社団法人神戸市医師会／公益財団法人日本動物愛護協会／公益社団法人日本愛玩動物協会／一般財団法人J-HANBS

アドバイザー (50音順)

植村 興氏 (四條畷学園大学教授)

笹井 和美氏 (公立大学法人大阪府立大学 獣医学類 学類長 教授)

柴内 裕子氏 (公益社団法人日本動物病院福祉協会 顧問／赤坂動物病院院長)

玉井 公宏氏 (公益社団法人和歌山県獣医師会会長)

山口 千津子氏 (公益社団法人日本動物福祉協会・獣医師調査員)

山崎 恵子氏 (ペット研究会「互」主宰)

コンタクト

神戸アニマルケア国際会議 (ICAC KOBE) 事務局 (公益社団法人 Knots 内)

〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通 6-6-7-405

Tel : 078-599-6663 (受付時間：月～金 13:00 ～ 17:00) **Fax : 050-3730-0738** (国内線用)

URL : <http://knots.or.jp> E-mail: animalcare@knots.or.jp

ICAC-KOBE 2014ウェブサイト

<http://www.knots.or.jp/corporation/2012/12/icac2014/>